

令和5年度 自己評価結果公表

社会福祉法人若竹会
幼保連携型認定こども園あそびの森あきわ

1. 本園の教育目標

すこやかでたくましくすなおな子ども

- ・たくましくすくすく育つ健康な子ども
- ・創造性と感性豊かな子ども
- ・思いやりがあり、みんなで仲よく遊べる子ども
- ・自分のことは自分でできる子ども
- ・あいさつができ、ルールを守れる子ども

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ◆行き届いた環境の中で情緒の安定を図り知・情・意・徳・体の調和のとれた全人教育をめざし人間形成をする。
 - ◆「とことん遊ぶ」と「自分でできる」を保証することで、主体的で、対話的で、深い学びにつなげていく。
 - ◆「ステキな保育者、子どもの憧れ」を意識することで、保育者自らが子どものなりたい自分につながるような存在を目指す。
 - ★保育環境スケールを用いて考える保育へ
 - ★デザイン・マップと実践・マップを用いた保育内容・環境の充実
- あそびの目標：とことん遊ぶ
- ◎各々の年齢の発達に合わせた遊び・遊び方 ◎集中して遊ぶ環境づくり
- 生活の目標：自分でできる
- ◎言葉かけ ◎心待ち

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
保育理念 保護者支援 組織性の理解	認定こども園教育・保育要領や法的根拠などについて日々学ぼうとしている。
	自分の働いているこども園の理念や目標を意識して保育している。
	養護と教育の一体性を意識しながら計画を立て、幼児教育・保育に取り組んでいる。
	こども園以外の機関との連携を心掛けている。

	<p>子どもの姿について、保護者と喜びを共有している。</p> <p>困っているのは保護者自身であることを理解して支援している。</p> <p>自分から職員や保護者に対して笑顔であいさつするように心がけている。</p> <p>誰かがやらなくてはいけない大変な仕事を、進んで引き受けている。</p>
子どもの姿を捉えた準備	<p>新しい保育の内容や方法などの情報を集め、取り入れている。</p> <p>子どもの発達の特長や過程、連続性について学ぼうとしている。</p> <p>子どもが安全、快適に過ごせる空間を整えている。</p> <p>子どもの興味・関心に合わせて、環境構成を行っている。</p> <p>一人ひとりの子どもの姿をイメージして教材などの準備をしている。</p> <p>絵本などの児童文化財について、しっかりと準備をしている。</p> <p>子どもの心情や意欲を考えて、遊びの共有や継続の工夫をしている。</p> <p>日々の保育の中で、一人ひとりの育ちに合わせて、デザインマップやエマージェントを作成している。</p>
意識的な実践	<p>日々、自分に課題を持って保育に取り組んでいる。</p> <p>子どもの姿に合わせて、遊びが継続するようにデザインしている。</p> <p>毎日、一人ひとりと挨拶を交わし、視診をしている。</p> <p>子どもに対し、指示や命令、依頼の言葉よりも誘いかける言葉を多くしている。</p> <p>子どもに対し、指示や命令、依頼の言葉よりも誘いかける言葉を多くしている。</p> <p>一人ひとりの心の動きを考えながら、言動するように心がけている。</p> <p>自然環境を感じられる工夫をしている。</p> <p>基本的な生活習慣については、一人ひとりの育ちに留意して取り組んでいる。</p> <p>遊びを通してどのような経験、育ちをして欲しいか考えている。</p>
客観的な振り返り	<p>一日の保育を振り返り、自分の言動を省察するように努めている。</p> <p>保育のよかったところ、悪かったところを記録として残している。</p> <p>他者が見ても理解しやすいように記録している。</p> <p>子ども一人ひとりの生活・活動を振り返り、保育のねらいと照らし合わせている。</p> <p>保育の中で気付いた自分自身の課題は、次の保育から改善するように努めている。</p> <p>子どもの姿を振り返り、翌日の保育をデザインしている。</p> <p>謙虚な気持ちで、他者からの保育に関する意見を聞くことができている。</p> <p>尊敬の気持ちを持って、他者の保育に対する自分の思いを伝えている。</p>

項目別の集計

評価項目	取組み状況	8月		12月		3月		平均	
		はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
組織性の理 保護者支援 保育理念	認定こども園教育・保育要領や法的根拠などについて日々学ぼうとしている。	80	20	78	22	89	11	82	18
	自分の働いているこども園の理念や目標を意識して保育している。	94	6	89	11	94	6	93	7

	養護と教育の一体性を意識しながら計画を立て、幼児教育・保育に取り組んでいる。	71	29	70	30	64	36	69	31	
	こども園以外の機関との連携を心掛けている。	51	49	30	70	47	53	43	57	
	子どもの姿について、保護者と喜びを共有している。	86	14	70	30	86	14	81	19	
	困っているのは保護者自身であることを理解して支援している。	86	14	84	16	89	11	86	14	
	自分から職員や保護者に対して笑顔であいさつするように心がけている。	100	0	100	0	97	3	99	1	
	誰かがやらなくてはいけない大変な仕事を、進んで引き受けている。	71	29	84	16	78	22	78	22	
子どもの姿を捉えた準備	新しい保育の内容や方法などの情報を集め、取り入れている。	66	34	65	35	64	36	65	35	
	子どもの発達の特性や過程、連続性について学ぼうとしている。	83	17	86	14	86	14	85	15	
	子どもが安全、快適に過ごせる空間を整えている。	80	20	70	30	81	19	77	23	
	子どもの興味・関心に合わせて、環境構成を行っている。	63	37	68	32	56	44	62	38	
	一人ひとりの子どもの姿をイメージして教材などの準備をしている。	49	51	65	35	61	39	58	42	
	絵本などの児童文化財について、しっかりと準備をしている。	46	54	57	43	58	42	54	46	
	子どもの心情や意欲を考えて、遊びの共有や継続の工夫をしている。	69	31	68	32	64	36	67	33	
	日々の保育の中で、一人ひとりの育ちに合わせて、デザインマップやエマージェントを作成している。	54	46	62	38	58	42	58	42	
	意識的な実践	日々、自分に課題を持って保育に取り組んでいる。	83	17	76	24	81	19	80	20
		子どもの姿に合わせて、遊びが継続するようにデザインしている。	66	34	57	43	61	39	61	39
		毎日、一人ひとりと挨拶を交わし、視診をしている。	80	20	78	22	78	22	79	21
		子どもに対し、指示や命令、依頼の言葉よりも誘いかける言葉を多くしている。	91	9	86	14	86	14	88	12
		一人ひとりの心の動きを考えながら、言動するように心がけている。	80	20	95	5	83	17	86	14
		自然環境を感じられる工夫をしている。	46	54	51	49	50	50	49	51
		基本的な生活習慣については、一人ひとりの育ちに留意して取り組んでいる。	77	23	81	19	78	22	79	21
遊びを通してどのような経験、育ちをして欲しいか考えている。		80	20	81	19	75	25	79	21	
客観的な振り返り	一日の保育を振り返り、自分の言動を省察するように努めている。	80	20	78	22	75	25	78	22	
	保育のよかったところ、悪かったところを記録として残している。	46	54	54	46	39	61	46	54	
	他者が見ても理解しやすいように記録している。	40	60	43	57	58	42	47	53	
	子ども一人ひとりの生活・活動を振り返り、保育のねらいと照らし合わせている。	57	43	62	38	67	33	62	38	
	保育の中で気付いた自分自身の課題は、次の保育から改善するように努めている。	74	26	76	24	83	17	78	22	
	子どもの姿を振り返り、翌日の保育をデザインしている。	40	60	51	49	56	44	49	51	
	謙虚な気持ちで、他者からの保育に関する意見を聞くことができる。	89	11	89	11	92	8	90	10	
	尊敬の気持ちを持って、他者の保育に対する自分の思いを伝えている。	77	23	84	16	83	17	81	19	

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

自己評価は、保育の質の向上を考える上で保育現場には必要不可欠なものと考えてきているが、昨今の不適切な保育を巡る社会的状況を考慮すると、自己評価の内容の検討も必要なことであるように思われる。

そこで今年度は、これまでの年三回の自己評価と同時に、追加で保育に関する自己評価チェックリストを取り入れることにより、保育者として一人ひとりが保育を振り返り、見直す機会を増やしました。

また、ここ何年かの評価を重ねることで、回答の傾向が明確になってきており、これまでの保育者の意図が強い保育から子ども主体の保育に向かっているからこそ見える回答が増えてきている。

まずは、「8. 新しい保育の内容や方法などの情報を集め、取り入れている。」及び「9. 子どもの発達の特徴や過程、連続性について学ぼうとしている。」という回答において数値が高くなり、子ども主体・子ども中心の保育を進めるために大切な態度が上昇してきていることである。保育においては、子どもの姿を捉え理解しようとするのが大切で、保育者自らがそれに向かって取り組もうとしている様子が見えたと感じた。

一方、昨年まで上昇していた「自然環境を感じられる工夫」項目が、急落した。これは、令和2年度に拡張した園庭の活用方法が頭打ちになり、園庭の保育環境が不満足な状況が続いているからと思われる。園の方針として、令和5年度は0,1満児専用園庭の整備を優先したため、メインの園庭整備が先送りになり、広がった園庭の活用方法が十分に検討することができなかったことが予想される。今後、園庭環境の大幅な改修を行い、保育者が環境を作りだし、活用することにつながる条件を整えていこうと考えている。

総じて、大項目の「保育理念等」の項目は全体として高い評価をしている一方、「客観的な振り返り」項目での回答が低調になっている。特に、「26.保育のよかったところ、悪かったところを記録として残している。」や「30. 子どもの姿を振り返り、翌日の保育をデザインしている。」といった項目が低調かつポイント低下していた。日常の保育において振り返りすることは、保育の質を担保し保育内容の向上に欠かせないものであり、その他の取り組み状況が保育に影響すると考える。単年度だけでなく、中期的に振り返りと保育をつなげる習慣を持てるように、自己評価の集計結果を基に具体的にチームで解決する仕組みを考えていくようにしていきたい。

引き続き、保育の「振り返り」を大切に「保育の質」につながるような保育の再構築を継続していきたい。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保育理念 保護者支援 組織性の理解	保育理念・保護者支援・組織理解などは、全体として上下していること項目が現れている。コロナ感染症に対する行動制限が解除されたことにより、コロナ前に行われていたような、外部機関との連携、地域との関わりを展開していく必要がある。地域資源を活用するといった保育内容については、経験の少ない職員もいるので、その学びの意味や目的を確認しながら理解を深めていく。
客観的な	環境構成の意味を考えると共に、環境を日々整えるためのミーティング時間を取るよう

振り返り	<p>になってきている。雑談的なコミュニケーションを重ねることで、保育に関する情報共有を増やしていくことが寄り効果的と考える。また、職員配置を増やしていく中で、ノーコンタクトタイム有効利用や職員間の連携につなげていく。</p>
	<p>保育の質に直接つながる「振り返り」の時間の確保は、引き続きノーコンタクトタイムの活用を検討していく必要がある環境構成同様に一人で考えるのではなく、複数の人間の考えを持ち寄って行う必要があり、チームで考える・振り返る習慣につなげていく。</p>

6. 学校関係者の評価

【令和6年2月17日実施】

保護者代表者に職員同様、評価項目の取組状況について評価していただき、その結果をどのように感じられるかを聴取した。

およその回答は、自己評価チェックのシートで行っていた保育に関する方針について良好な回答をいただいていた。

日々の保育については、今年も子どもの興味関心に沿った活動をしていることに対する評価が大きく、子どものやってみたいを大切にしたいという要望が多かった。子ども中心の主体的・自主的な活動や日々のドキュメンテーションやポートフォリオを楽しんでいただけているようで、当園ならではの保育内容についても高評価が見られた。今後も、子どもたち一人ひとりのかわいらしい姿、がんばる姿、協力する姿、成長していく姿に接しているからこそ、保護者の皆さんにも共感いただけるような保育を展開していきたいと思えます。また、園庭が大きくなったことで、身体を動かすことが出来る機会が増えたこともよいという意見としてみられた。

同時に、職員に関するご意見もいただき、普段の保育に対し信頼をいただけている様子がうかがえ、日々の保育での一人ひとりの努力の積み重ねが評価されていると感じられた。これからも「丁寧な保育」に勤めていけるよう研修を含め、研鑽を深めていきたいと思えます。

他方、コロナ感染症を受けて実施していなかったプール遊びは、水遊びを中心に、色水遊びや泥遊びなどの実施を行うことで、プール遊び以上の遊びをできるようにしていきたいことや、保育園図書の貸し出しの要望についても実施可能な内容であるので、必要な準備段取りを進めていきたいと考えている。

全般として、子ども主体・子ども中心の考え方が保護者に浸透し始め、当園を選択して利用している保護者も増えて、おうちの方々も子どもの気付きや発見と一緒に楽しむ姿が増えてきたのではないかと思われる。引き続き、入園時の説明の他、当園で行っている保育の方向性を保護者の方々にご理解いただきながら、説明が不十分のところを情報提供・情報発信から保育の質の充実を図っていきたい。